

クライストチャーチ地震11周年に際しての
伊藤駐ニュージーランド大使のクライストチャーチ訪問

2022年2月22日は、日本人28名を含む多数の犠牲者を出したクライストチャーチ地震の発生から11年に当たる日です。この日に、伊藤康一駐ニュージーランド大使は、首都ウェリントンからクライストチャーチを訪問しました。

ニュージーランドでは、新型コロナウイルス・オミクロン株の市中感染拡大を受け、最も厳しい感染防止措置が取られていることから、クライストチャーチ地震11周年関連の全ての追悼行事が中止になってしまいました。伊藤大使は、新型コロナ関連規制のため、邦人犠牲者の御遺族がニュージーランドに渡航できない中、御遺族に代わって犠牲者に追悼の意を表すことにしたのです。

訪問当日、伊藤大使は、まずエイボンヘッド公園墓地にて、中央献花台及び邦人犠牲者の墓石に献花しました。その後、地震による全ての犠牲者のお名前が刻まれたメモリアル・ウォールを訪れ、邦人犠牲者28名のお名前をひとりひとり確認した上で献花し、黙祷を捧げました。当日は、慰霊式典は開催されなかったものの、メモリアル・ウォールには、クライストチャーチ市のダルジール市長をはじめとする有志の方々が追悼の献花を行っており、その献花の近くに、伊藤大使も花を手向けました。

次に、伊藤大使は、邦人犠牲者の方々が通っていた語学学校が入居していたCTVビルの跡地を訪れ、献花して追悼しました。また、伊藤大使は、ポーラム・スミスNZ姉妹都市協会理事の案内で、CTVビル跡地に隣接する「紙の大聖堂(Christchurch Transitional Cathedral)」を訪問しました。

翌日の2月23日の午前、伊藤大使は、クライストチャーチ市役所にて、リアン・ダルジール市長と会談しました。会談の冒頭で、伊藤大使は、昨日メモリアル・ウォールで献花し、その様子をオンラインで御遺族に伝えたダルジール市長及び市役所関係者の尽力に対し感謝の意をお伝えし、また、ダルジール市長が2020年の訪日時に御遺族に対し謝罪されたことを含め、市長が御遺族の方々のお気持ちに誠意を持って向き合っていることに敬意を表しました。続いて、伊藤大使は、今回は御遺族がクライストチャーチを訪れることができなかったものの、震災後12年に当たる来年は、日本人にとっては十三回忌に当たる大事な年であることを説明し、その上で、国境措置の緩和が予定されていることなどからも、御遺族は来年の式典参加を強く希望しており、引き続き御遺族の方々のお気持ちに配慮していただきたいと伝えました。

伊藤大使は、今回のクライストチャーチ訪問を通じて、犠牲者がニュージーランドに来た時に感じたであろう希望に思いを寄せ、また、今後もこのような悲劇に見舞われた御遺族の悲しみを決して忘れることなく、この記憶を後世に伝えていくため、日本大使としてできる限りのことをしていくとの決意を新たにしました。

【伊藤大使のクライストチャーチ出張の様子】

① エイボンヘッド公園墓地での献花



② メモリアル・ウォールでの献花



③CTVビル跡地での献花



④ダルジール・クライストチャーチ市長との意見交換



(発行元・お問い合わせ先)

在ニュージーランド日本国大使館

代表電話: +64-4-473-1540

メール: consular@wl.mofa.go.jp

(担当: 高田勇深)